PART2 「に」の識別（基本編）

「に」の識別

【識別対象】

1 **形容動詞**ナリ活用の連用形の活用語尾
2 **ナ行変格活用動詞**「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の連用形の活用語尾
3 **完了の助動詞「ぬ」**の連用形
4 **断定の助動詞「なり」**の連用形
5 **格助詞**の「に」
6 **接続助詞**の「に」
7 **副詞・副助詞**の一部　→「さら**に**」「まさ**に**」「げ**に**」「だ**に**」など

〈見分け方〉＝「　　」→「　　」

1　「　　・　　」＋に＝**形容動詞**

「　　」「　　」「　　」＋**に**　の形が多い。

2　　　　　**にの「に」**＝**ナ変動詞**連用形の活用語尾

3　「　　」形＋に＝**完了の助動詞**「ぬ」の連用形

※　**に**＋　　　　の形が多い。

第17講 PART2 確認問題

①「春日（かすが）の里にしるよしして、狩に往にけり。」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ナ行変格活用動詞の連用形活用語尾　　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形

ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　　エ　形容動詞ナリ活用の連用形活用語尾

②「いとはしたなくてありければ、心地まどひにけり。」の傍線部と、文法的説明が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　狩はねむごろにもせで、…

イ　待ちわびたりけるに、…

ウ　いとあはれになつかしうをかし。

エ　狩り暮らしたなばたつめに宿からむ天の河原に我は来にけり

③「雪とのみ降るだにあるを桜花いかに散れとか風の吹くらむ」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　格助詞の「に」　　イ　接続助詞の「に」　　ウ　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　エ　副助詞の一部

④　傍線部「に」について、文法的説明が他と異なるものはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　さらにまだ見ぬ骨のさまなり。
イ　年ごろ、つれづれにながめ明かし暮らしつつ、…
ウ　すでにあらはれにたり。
エ　げに、あるまじきことなり。

⑤　ア〜エの中から、断定の助動詞「なり」の連用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　む月の十日ばかりのほどに、ほかにかくれにけり。
イ　別れ惜しみて行きにけるままに、…
ウ　かかる病にもある事にこそありけれ。
エ　「いまはいかゞいらふべき」などさだむるに、…

第17講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「に」の上が、「往」であるのでナ変動詞「住ぬ」の連用形の活用語尾。よって、アが正解。

② ハ行四段活用動詞の連用形に接続しているので、完了の助動詞。同様に、「来」はカ行変格活用動詞の連用形。よって、エが正解。

③ 「に」の上は「だ」であり、「だに」は副助詞。よって、エが正解。

④ 「つれづれなり」とできるので、「つれづれに」は形容動詞。ア、ウ、エは副詞である。よって、イが正解。

⑤ 断定の「なり」は体言・連体形に接続する。ウとエに絞れるが、ウは「にこそ」の下に「あり」がある。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ エ　④ イ　⑤ ウ